

目指す学校像	わくわく・いきいき・どきどき、「みんなの瞳が光ってる」学校
--------	-------------------------------

重点目標	1 主体的に学び合い、誰もが成長できる学校 2 安全・安心と美しい環境で、心が潤う学校 3 地域の力で、子どもがすくすくと育つ学校 4 あいさつがいっぱい、笑顔があふれる学校
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価		年 度 評 価		学 校 運 営 協 議 会 による 評 価				
年 度 目 標		年 度 評 価		実施日令和5年2月13日				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、算数ともに全国、市平均と比べて若干低い結果である。 ○全国学力・学習状況調査の結果概要から標準偏差が高く、全国や市と比べてばらつきが大きい。 ○与えられた課題はそつなく取り組むが、発展的内容につながらない。 (課題) ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、特に国語の「書くこと」及び算数の「わけを書く問題」等、主に文章を書くことに関する設問について、正答率が低く課題が見られる。 ○自分の考えを文章で表すことに苦手意識が見られるので、必要な情報を文章で表現する力を身に付けさせることが課題である。	・指導方法の工夫と主体的な学びによる確かな学力の向上 ・主体的に学び合い、誰もが成長できる学校	①国語、算数を中心に、休み時間や週休日にスタディサプリ、ドリルパークなどで苦手な分野に取り組めるようにする。 ②全国学力・学習状況調査について、児童が自己採点を行い、その結果を情報端末上のシートに入力することで、児童が自らの学習状況を把握できるようにする。 ③全国及び市の学習状況調査の最新の結果を基に、市教委による学力向上カウンセリング研修を行い、全教員で本校の現状を把握し、学校全体で児童の学力向上を図る。	①国語、算数について、全児童に対して学習の取組状況を把握し、目標をもって学習できるようにできたか。 ②児童が自己採点の結果をもとに、自らの学習状況をつかみ、目標を立て、達成に向けて行動できるようになったか。 ③調査結果の分析結果や学力向上カウンセリング研修を踏まえ、授業改善の視点、手立てを学年ごとに設定することができたか。また、国語、算数共に「書くこと」について表現する力を身に付けさせることができたか。	①1人1台端末を活用し、ドリルパークやスタディサプリの活用を図った。 ②児童が端末を活用し、自己採点を行い、自らの学習状況をつかむことができた。そこから目標を立て、達成に向けて行動できるかは児童の個々の意識によるところも大きかった。 ③学力向上カウンセリング研修を実施し、全教員で本校の現状を把握するとともに、問題の傾向を知ることができた。「振り返り」の時間等「書くこと」を意識し、活動に取り入れることができた。	B	①低学年での1人1台端末の積極的な活用やより効果的な活用について検討する。朝学習や休み時間等、活用を図る時間を教育課程として組み込む。 ②自己採点を行い、その結果を自らの学習へと生かしていきけるよう児童が目標を立てる時間を設定する。 ③引き続き全教員で学力向上カウンセリング研修を実施する。校内研修等を通して、学年で情報を共有する時間を確保する。	・「楽しい+分かる=もっと知りたい授業」の積み重ねで児童の学習意欲は少しずつ向上すると思う。 ・指導法や指導に関するツールが豊かになり、学習環境は着実によくなっている。 ・熱心に落ち着いて学習に取り組んでいる児童が多い。 ・学習の習得は一人ひとり違い、人数が多いので大変だが、家庭と連携しながら、児童が習得できるとよい。 ・家庭の教育力の大切さを保護者会等で伝え、学力向上に結び付けたい。
2	(現状) ○さいたま市学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的に回答をした児童の割合は、80%を超え90%に近い。 ○昨年度、施設・設備の不具合等が主な原因と考えられる児童のけがが1件(剥がれた外壁による擦り傷)、救急車を要請した事故が1件、医療機関を受診したけがが46件であった。 (課題) ○コロナ禍による生活環境の変化のみならず、教員の大幅な異動に伴う共通理解、共通行動による生徒指導、教育相談体制の確立が課題である。 ○教員による施設設備の安全点検を確実に行うだけでなく、行った結果に対して迅速に対応し、修繕及び管理を行うことが課題である。	・児童一人ひとりへの細やかな生徒指導、教育支援・相談に向けた校内体制の充実 ・安全・安心と美しい環境で、心が潤う学校	①情報端末(Forms)を活用した児童アンケートの実施をはじめとして、一人ひとりの状況を継続的に把握できるようにする。 ②生徒指導、教育相談に係る校内委員会で児童の情報交換を行い、児童の状況を細やかに把握し、組織的に支援・相談を行う。	①学校評価に係るアンケート(教職員)において、関連する項目の肯定的な回答の割合が80%以上となったか。 ②学校評価に係るアンケート(児童、保護者)において、関連する項目の肯定的な回答の割合が80%以上となったか。	①学校評価「よく学ぶ子」の項目は、5つの項目すべてで肯定的な回答が教職員、児童90%以上、保護者80%以上であった。 ②学校評価「心ゆたかな子」の項目は、5つの項目すべてで肯定的な回答が児童90%以上、保護者80%以上(2項目90%以上)であった。	A	①児童が「学ぶことが楽しい」と思っている現状を肯定的に受け止めながら、校内研修を推進し、学力向上の取組を図る。 ②引き続き、組織的な生徒指導、教育相談対応を心がけ、教職員の共通理解を図り、児童、保護者に寄り添った対応に努める。	・運動会等の学校行事が元に戻りよかった。 ・廊下、階段、手洗い場等の掲示により、全体が明るい雰囲気になっている。トイレ内の掲示も工夫され、汚いイメージがなくなった。 ・トイレ改修、プロジェクト設置等により、ますます充実した施設になる。 ・気持ちのよい挨拶をする児童が増えている。 ・学級によって挨拶や教室の様子に違いがある。お互いよい影響を受けてほしい。
3	(現状) ○昨年度、本校は令和4年度学校運営協議会立ち上げに向け、準備委員会を設置し、「地域でどのような子どもたちに育てていくのか」について熟議を行い、次年度の目標ビジョンを共有し、善前地域総ぐるみで子どもたちの健全育成及び学校経営に取り組んでいくこととした。 (課題) ○今年度は、学校運営協議会を立ち上げ、昨年度に準備委員会で共有した目指す子どもたちの姿から「学校、家庭、地域が一緒にできることは何か」について熟議を行い、具体的にできることや準備、日程等を検討し、その実現に向けた方策を定め、継続的な行動に向けた一歩を踏み出すことが課題である。	・目指す児童の姿を地域全体で共有するためのICT活用、教育活動公開 ・地域の力で、子どもがすくすくと育つ学校	①本校HPにおいて、学校経営方針や学校だよりを公表するとともに毎日HPを更新し、目指す児童の姿等を広く、家庭、地域と共有できるようにする。 ②学校保健委員会をはじめとする学校行事等を保護者、地域の方がオンラインで参観できるようにし、学校の教育活動に対する関心を高める。	①学校評価に関するアンケート(教職員)で「家庭や地域の願いや期待の具現化を図っている」と回答する割合(肯定的)が80%以上となったか。 ②上記のアンケートで「Webページ等により教育活動等に関する情報が適切に提供されている」と回答する割合が80%以上となったか。	①学校評価「家庭や地域の願いや期待の具現化」において、教職員の肯定的な回答が96.6%であった。 ②学校評価「Webページ等による情報の適切な提供」において、教職員の肯定的な回答が95.5%、保護者が90.0%であり、家庭、地域と共有できた。	A	①学校評価に係るアンケートを1.2学期と実施し、結果を教職員に周知したが、結果を十分に共有し、充実を図ることが課題である。 ②Webページによる提供を引き続き実施するとともに、役割を分担し、新しいシステムでの活用を推進する。	・熟議において教職員、PTAのたくさんの方の意見に触れることができた。開かれた学校づくりの一步へ近づいている。 ・教職員の様々な想いが分かり、共感できた。今後は地域も一緒に考え実行したい。 ・限られた時間の中で目的をもって話し合うことができていく。「おうえん隊」がよい。 ・キャラクターを用いたタオルや腕章等の作成の実現に向け、協力したい。 ・地域が応援し、支えることで素晴らしい学校になる。
4	(現状) ○マスク着用等を含め、校内ではできるあいさつが、地域等では少なくなっている。 ○情報端末をはじめとしたICTの活用方法について、エバンジェリストが中心となり研修を重ねている。 ○高学年での教科担任制により、担当する教科についてより深い教材研究を行っている。 (課題) ○教職員間での取組の差を含め、ICTの効果的な活用方法が求められる。 ○担当する教科でみられる児童の姿を学年内で共有する方法が課題である。	・あいさつがいっぱい、笑顔があふれる学校 ・笑顔があふれる学校に向け学び続ける教職員の育成	①児童会を中心としたあいさつ運動の実施や異学年交流の機会を図り、あいさつを通して学校が元気になるよう推進する。 ②毎週木曜日の研修や学期1回の研究授業を通して研究を推進する。 ③エバンジェリストを中心に、全ての教員がICTについて学ぶ研修を毎月や長期休業中に実施する。 ④一人ひとりの教員が年間を通して取り組む授業改善の目標を自己評価面談時に設定し、目標に向けた授業を年間1回以上公開する。	①学校評価に係る児童アンケート「いつも気持ちのよいあいさつができた」と回答する児童の割合が80%以上となったか。 ②学校課題研修への取組を通して、児童の「自己有用感」はぐくむことができたか。 ③全ての教員が「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、日常的にICTを活用する状況になったか。 ④全ての教員が、自らの目標に向けて授業改善策に取り組み、学校評価アンケート「授業に関する項目」で80%以上となったか。	①学校評価「いつも気持ちのよいあいさつができた」の児童の肯定的な回答が、84.1%であった。保護者、教職員においても肯定的な回答が80%以上となった。 ①学校課題研修アンケートにおいて児童の自己有用感、令和2年度81%から84%へ向上し、はぐくむことができた。 ②「よい授業」アンケート「ICTの活用」が1回目84.0%と比較し2回目が88.2%へ向上し、活用が図られた。 ③学校評価アンケート「授業に関する項目」で肯定的な回答が93.1%であった。	A	①学校だけでなく、地域においてもあいさつ、笑顔があふれる児童を育成し、家庭、地域との連携を図る。	・あいさつはよくなってきているが、学校と地域で差があるように感じる。 ・あいさつについて校内での徹底を期待したい。 ・学校行事等、多くの情報が地域へ流れるように工夫が必要である。地域の自治会の掲示板等を効果的に活用したい。 ・他校の事例等、参考にすべきものを積極的に紹介したほうがよい。